

陶磁器リサイクルの仕組みづくり

環境首都をめざす自治体 全国フォーラムin安城

平成21年11月25日
岐阜県多治見市環境課



多治見市マスコットキャラクター

うながっぱ

多治見市の概要

昭和15年市制施行

人口 117,022人（平成21.10.1現在）

面積 91.24平方キロメートル

- **日本最大の陶磁器生産地**

1000年を超える歴史

食器類では50%以上のシェア

- **昭和50年代から名古屋のベッドタウンへ**

盆地形状の地形 底部に旧市街地 丘陵地に新住宅団地



グリーンライフ21(GL21)

陶磁器のリサイクル

美濃のRe-食器

壊れたり、不用になった食器
や産地内で発生した不良品を
回収し、これを粉砕して原料と
して20%以上まぜて再度焼成

リサイクル
(再生原料使用)



枯渇性資源の有効利用



埋立ての廃止

リデュース
(埋め立て地の延命)



1997年6月設立 (2006年4月法人化)

使用済み等廃食器回収量（推定）

	2007年
■ 自治体による回収量（所沢市、牛久市、多摩地域、垂井町、生駒市）	45トン
■ NPO、団体など回収量（中部リサイクル運動市民の会、他）	83トン
■ 一般ユーザーから直送される廃食器（全国）	1.3トン
■ 給食食器回収量（全国各地）	42トン
■ 産地内不良食器回収量	50トン

計 約220トン进行回収 / 15万吨

08年

約100tをRe-食器に使用

約500tの食器坏土作製

約180万个余の
Re-食器生産

残りは
Re-食器以外の食器
耐火物
建材に利用。

他はストックとして残。

1999年
廃食器使用量: 4.0トン
使用済廃食器回収量

2000年=15トン

01-02年=30トン

03年=43トン

04年=50トン

05年=64トン

07年=180トン

食器再生の流れ

1. 粉 碎



2. 坏土作製



器から器へ

6. 回 収



5. 生活使用



3. 成形・焼成

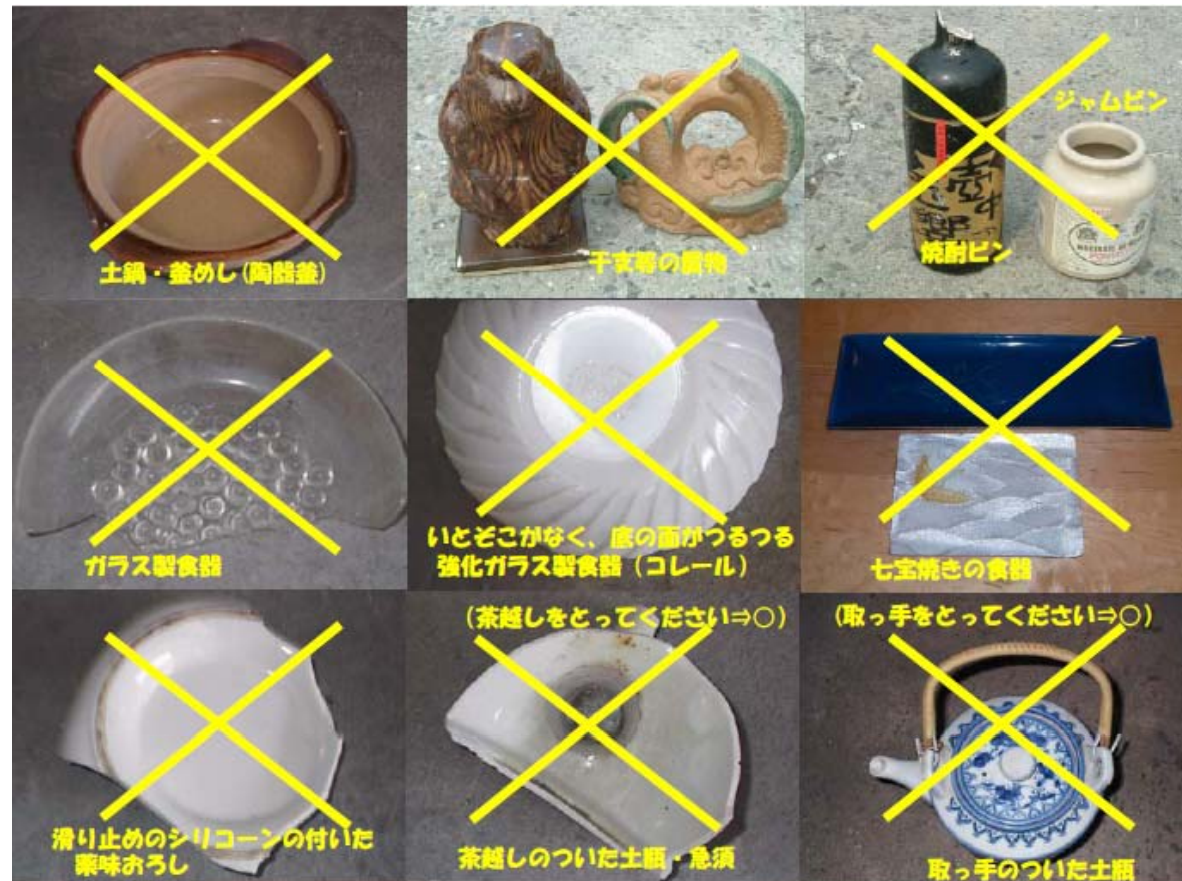


4. 製品・流通

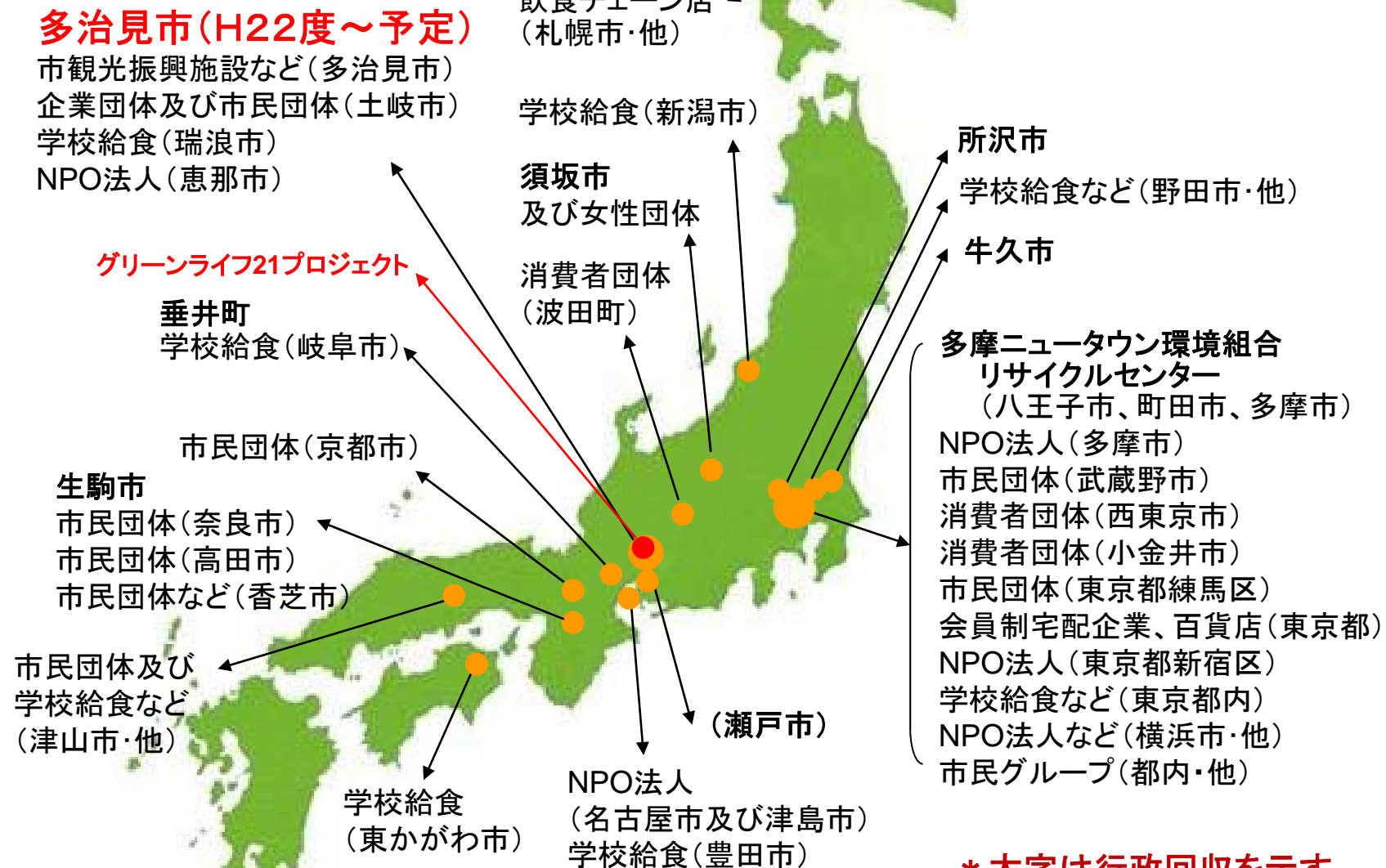
回収の対象となる食器

陶磁器製の食器のみ

陶磁器製食器に限定して回収することで、安全性が高まるとともに、分別コストが低減される。



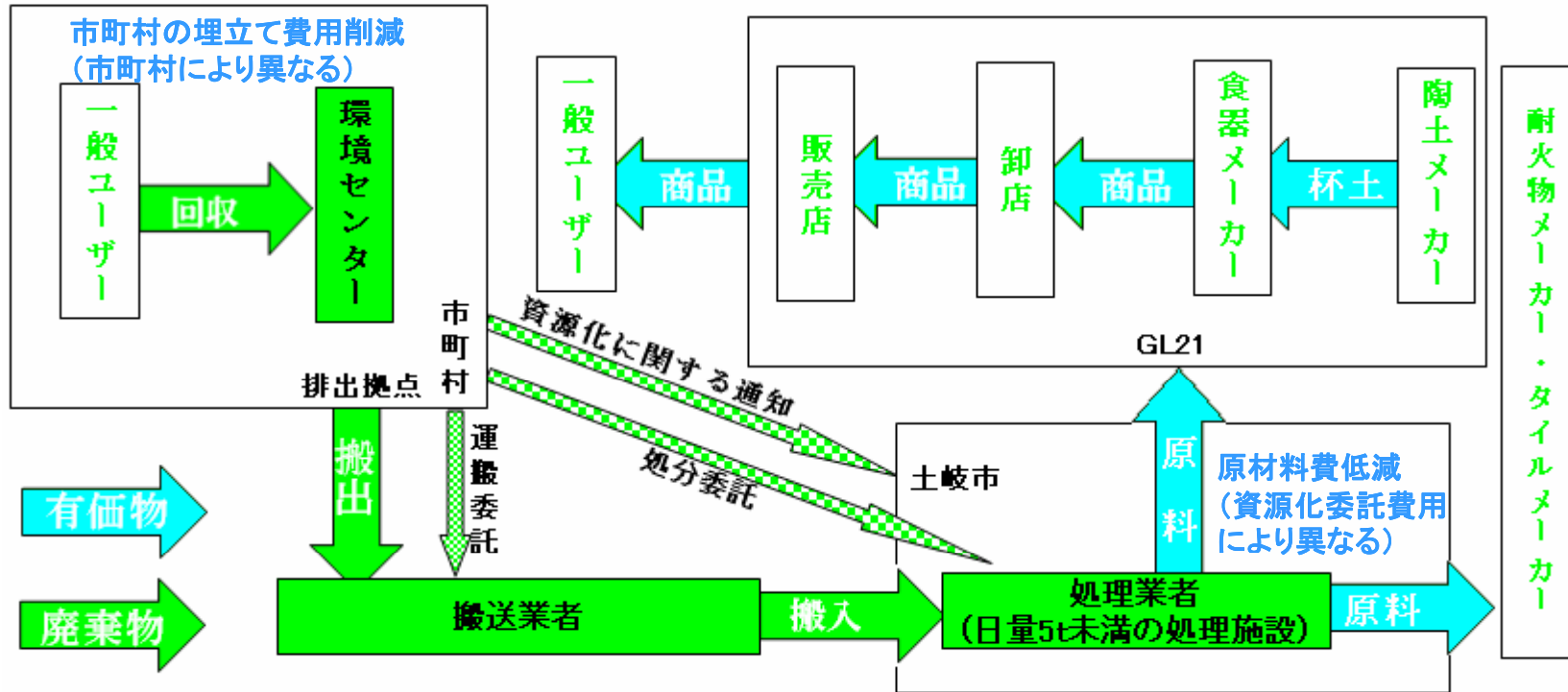
使用済み食器の主な回収箇所



* 太字は行政回収を示す。

食器リサイクルの流れの一例

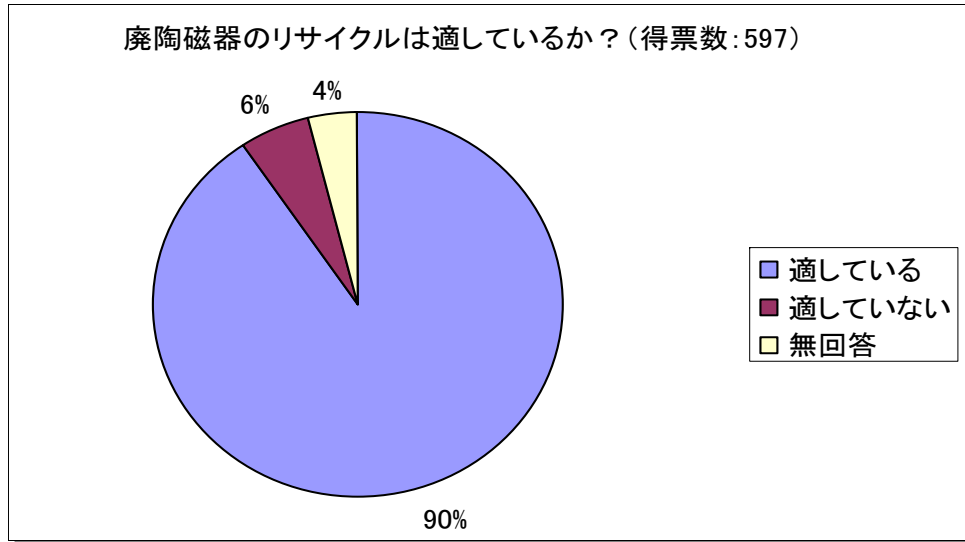
市町村の委託方式による一般廃食器リサイクルシステムの流れ



所沢市・垂井町・生駒市等は、既に行政回収を実施中

多治見市民の陶磁器リサイクルに対する意識

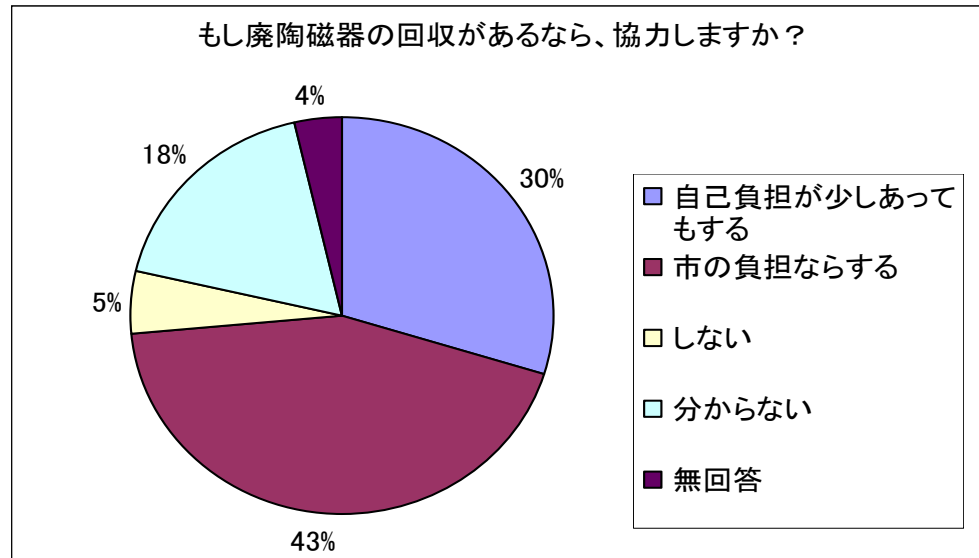
■多治見市において廃食器リサイクルの市民意識調査(アンケート)を行ないました。



- 調査時期
平成18年10月
- 調査場所
岐阜県多治見市
- 調査対象者
市内2000世帯

廃食器のリサイクルは適していると答えた方が大半でした。

73%の方が回収に協力するという回答でした。



- 自己負担が少しあってもする
- 市の負担ならする
- しない
- 分からない
- 無回答

多治見市の今後の取組み

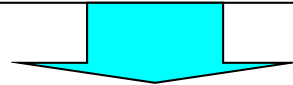
平成22年度中に陶磁器の回収を開始予定

多治見市だけで、20～30トン回収の見込み

《参考》

平成18年度モデル事業の実績

約2,350世帯の地域で、2回収収 … 1,750kg



環境負荷の低減へ

平成20年度の資源化率 … 約33%

平成22年度の資源化率(目標) 55～60%

年間数百トンの埋立量の削減(平成20年度実績)